

10年に一度の大寒波がやってきた

1月20日が暦の上で大寒になっていましたが、このあたりから日本全体を覆うように大寒波がやってきました。御殿場市でも、1月25日には最高気温が0度という氷の世界になり、その後も最高気温が5度前後という本格的な冬を感じる毎日となりました。日本の観測史上で最低気温を記録したのは、1902年1月25日の北海道・旭川で記録はなんと「-41度」だそうす。

続く2位は同じく北海道・帯広で1位になった旭川の翌日（1902年1月26日）に「-38.2度」が記録されています。今から100年前と大寒波の時期が似ているのも面白いですね。残念ながら新記録は更新されませんでした。



我が家の中庭にある外水道の氷です 25日



キラキラ輝くダイヤモンドダスト

さて、日本気象庁の公式記録では旭川市の記録が未だに抜かれていません。しかし幻の記録として1978年2月17日に北海道の幌加内町が非公式ながら「-41.2度」を記録したそうです。そこで、幌加内町では毎年2月17日を「[天使のささやきの日](#)」として制定しました。「天使のささやき」という名称は、-10度以下になると空気中の水蒸気が凍るダイヤモンドダストからヒントを得ました。凍るときに出る微かな音を「ささやき」という素敵な言葉に置き換えたそうです。では「天使」は何か？それは、凍った空気中の水蒸気が太陽の光に反射してキラキラ輝く様子を「天使」に見立てたそうです。

幌加内町の取組は、雪や寒さのイメージだけでなく、雪国の神秘や楽しみを感じさせてくれますね。一生に一度は寒さをこらえて見たり聴いたりしてみたいです。
(一度だけなら我慢できそうなので)

暦の上では2月4日が立春になります。しかし、幌加内町で今年も「天使のささやき」を2月に聴いたり見たりできるとすれば、まだまだ春は遠いことでしょう。寒さが骨にしみる私としては、早く春がやってくれることを祈っています。ポカポカ陽気に誘われて、桜がつぼみを膨らませるのを楽しみにしています。区内で一番に春を見つけるのは、毎日区内をウォーキングしている広報部長の伊藤先生かもしれませんね。